

徳島赤十字病院初期臨床研修プログラム：一般外来

コース責任者：尾崎 敬治

研修期間：必修科（一般外来）として4週間

I：一般目標（GIO:General Instructional Objective）

医師として望ましい姿勢・態度と基本的な診療能力を身に付け、頻度の高い慢性疾患の継続診療を行うために、特定の症候や疾病に偏ることなく、原則として初診患者の診療及び慢性疾患の患者の継続診療を含む研修を行う。

II：行動目標（SBOs:Specific Behavioral objectives）

A. 基本姿勢・態度 研修医手帳を参照

- 1) 患者・家族、他の医師やメディカルスタッフと良好なコミュニケーションをとり、チーム医療を実践することができる。
- 2) 疾患本位ではなく患者本位の全人的な医療のあり方を学び、実践できる。
- 3) 医師としての社会的使命を理解し、保健予防からリハビリまたは在宅ケアまで視野に入れた包括的診療の重要性を学ぶ。

B. 診察法・検査・手技

①主な医療面接・基本的な身体診察法

- 1) 一般内科疾患患者の医療面接、身体診察を正確に行うことができる。
- 2) 全身を系統的に診察し、所見を挙げるとともに正確に診療録への記載ができる。
- 3) 頻度の高い病態・疾患に対して、エビデンスに基づく標準的な診療を理解し、実施することができる。
- 4) 患者及び家族に病状や治療について正確に説明することができる。

②主な基本的な臨床検査

- 1) 一般内科診療に必要な検体検査、画像検査、病理検査等を選択しオーダーすることができる。結果を解釈することができる。

※検査項目一覧

（尿検査、便検査、血算・白血球分類、動脈血ガス、血液生化学、血清学的検査、細菌学的検査、細胞診・病理組織検査、心電図、肺機能検査、超音波検査、単純X線検査、CT・MRI など）

③主な基本的手技

- 1) 採血法（静脈血・動脈血）を実施することができる。
- 2) 注射法（皮内、皮下、筋肉、静脈確保、点滴・静脈内注射）を実施することができる。
- 3) 経鼻胃管の挿入・管理を適切に行うことができる。

- 4) 抗生剤の適正使用を理解し、実施することができる。
- 5) 輸液療法を理解し、実施することができる。
- 6) 輸血療法を理解し、実施することができる。
- 7) 栄養療法を理解し、実施することができる。

C. 主な症状・病態の経験

発熱、全身倦怠感、食欲不振、体重増加・減少、浮腫、頭痛、めまい、咳・痰、胸やけ、リンパ節腫脹、誤飲、誤嚥 など

III：学習方法 (LS：Learning Strategy)

1) LS (方略) 1：On-the-job training

■ 主な外来業務

- ・ 総合内科外来にて初診患者の医療面接と診療録記載を行い、指導医または上級医の指導のもと外来業務のシステムや手順を学ぶ。
- ・ 小児科研修の中で外来研修を行う。
- ・ 地域医療研修の中で外来研修を行う。

2) LS (方略) 2：カンファレンス・勉強会

- ・ カンファレンスで、新規担当患者の症例提示を行い、問題点や診療方針についての意見交換を行う。
- ・ 毎日の申し送り（チーム別ショートカンファレンス）で担当症例の要約を提示し、意見交換を行い、病態解釈や診療方針についてフィードバックを受ける
- ・ 定期的開催される勉強会、臨床カンファレンス・講演会、CPC 等に積極的に参加し、常に医学知識をアップデートするとともに、広く臨床医学へ見識を深める。

3) LS (方略) 3：学会・研究会・学術活動

- ・ 各種の院内研修（医療安全、感染対策など）に参加し、臨床医として必要な基本知識を身に付ける。
- ・ 担当症例の学会発表や症例報告論文の作成を通じて診療プロセスをレビューするとともに、適切なプレゼンテーション能力を身に付ける。

IV：学習評価 (EV：Evaluation)

EPOC による総合評価

- 1) ローテイト研修終了時に、EPOC に診療経験にもとづく自己評価を行い、指導医による評価を受ける。
- 2) 診察態度や協調性について看護部及びメディカルスタッフ等による 360 度評価を行う。